

明 細 書

発明の名称： デッキプレートアセンブリおよびその設置方法

技術分野

[0001] 本発明は、デッキプレートアセンブリおよびその設置方法に関する。

背景技術

[0002] デッキプレートは、コンクリートを打設しない外断熱乾式工法屋根の下地において、計量で工期短縮が図れる合理的な材料として知られている。また、デッキプレートとコンクリートとを一体化して形成したデッキ合成スラブは、施工性やコストに優れていることから鉄骨造建築物の標準的な床材料として普及している（例えば、特許文献1参照）。デッキ合成スラブおよび屋根下地デッキプレートは、天井仕上げが求められることが多い。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2020-41348号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 建設現場において、上記のような天井仕上げは上向き作業を伴うため危険であり、施工の精度を向上させるのは容易ではない。

[0005] 本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、施工時における安全性および精度の向上を図るべくデッキプレートを改良し、さらに、その改良されたデッキプレートの合理的な設置方法を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0006] 本発明に係る一実施形態は、デッキプレートと、デッキプレートの下面に設けられた、デッキプレートの単位幅と等しい単位幅を有する化粧材と、を備えるデッキプレートアセンブリであって、デッキプレートは、前記デッキプレートの端を折り曲げて、反り上がったフック状に形成された第1の嵌合部と、第1の嵌合部とは上下逆に反ったフック状に形成された第2の嵌合部

と、を備え、第1の嵌合部は、デッキプレートの、短手方向における端部の一方に、デッキプレートの下面に設けられた化粧材の端部に対して引込むように設けられており、第2の嵌合部は、デッキプレートの、短手方向における端部の他方に、デッキプレートの下面に設けられた化粧材の端部に対して突出するように設けられており、第1の嵌合部および第2の嵌合部は、隣接する2枚のデッキプレートアセンブリが嵌合されたときに、それぞれに設けられた化粧材の下面が略面一になるように形成されていることを特徴とする。

- [0007] これによれば、化粧材により短手方向におけるデッキプレートアセンブリの単位幅が明確に画定されるため、化粧材が、短手方向において、嵌合される第1の嵌合部と第2の嵌合部との間に生じる遊びの調整ガイドを兼ねることができ、その結果、設計値どおりの単位幅を確保するためのデッキプレートの丁寧な施工を計画する手間が省ける。
- [0008] また、第1の嵌合部側に設けられた化粧材の端部が、該第1の嵌合部よりも短手方向に延出していることが好ましい。
- [0009] これによれば、コンクリートをデッキプレートの上に打設した場合、化粧材同士の間隙からのコンクリートノロ漏れを抑制することができ、デッキプレートの下面の美観が改善される。
- [0010] また、化粧材の短手方向における端部の側面に、接触する2枚の化粧材を嵌合するための継手が設けられていることが好ましい。
- [0011] これによれば、デッキプレートアセンブリ同士の強固な嵌合が可能となり、コンクリートノロ漏れの抑制や敷き込まれたデッキプレートアセンブリの全体の形状を画定するなど施工面や美観面での機能を向上させたり、構造的な性能、耐火性能、居住性能などを更に向上させたりすることに貢献する。
- [0012] また、デッキプレートが、長手方向に延在する山部及び谷部とから形成されているデッキプレート、平板部にリブが形成されたフラットデッキプレート、または鉄筋トラスが装着された鉄筋付きデッキプレートであってもよい。

[0013] また、デッキプレートが、長手方向に延在する山部及び谷部から形成されているデッキプレートである場合、デッキプレートの山部と化粧材との間に空調設備、消火設備または配線設備などの建築設備や電機設備が設けられていてもよい。

[0014] 本発明に係る更なる実施形態は、隣接する2枚のデッキプレートアセンブリを設置する方法であって、一方のデッキプレートアセンブリにおける化粧材の、第2の嵌合部側の端部を、他方のデッキプレートアセンブリにおける化粧材の、第1の嵌合部側の端部の上に載せるステップと、化粧材の第2の嵌合部側の端部を、該端部の下側の角隅を軸に、該端部の側面が第1の嵌合部と接触するまで傾けるステップと、化粧材の第2の嵌合部側の端部の下側の角隅を、化粧材の第1の嵌合部側の端部の縁までずらすステップと、第1の嵌合部と第2の嵌合部とが接触した状態で、前記一方のデッキプレートアセンブリを、前記他方のデッキプレートアセンブリに対して下方に枢動させるステップと、を含むことを特徴とする。

[0015] これによれば、危険な上向き作業を伴う天井仕上げ作業をデッキプレート施工と兼用して省略することが可能であり、かつ、デッキプレートアセンブリの落下が防止され、精密な取り付け作業が可能となる。

発明の効果

[0016] 本発明によれば、安全かつ効率的にデッキプレートアセンブリの敷込と天井仕上げとを同時に行うことができ、設置作業の精度を上げることができる。

図面の簡単な説明

[0017] [図1]一単位幅のデッキプレートアセンブリを示す斜視図である。

[図2]天井仕上げされたデッキプレートアセンブリの断面図である。

[図3] (a) ~ (d) は、デッキプレートアセンブリの設置方法を示す図である。

[図4]嵌合された2枚のデッキプレートアセンブリの短手方向の断面図である。

[図5]別の実施形態に係る嵌合された2枚のデッキプレートアセンブリの短手方向の断面図である。

発明を実施するための形態

[0018] 以下に、本発明のいくつかの実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、以下の説明において、図面は模式的なものであり、各要素の寸法の関係、各要素の比率などは、現実と異なる場合があることに留意する必要がある。図面の相互間においても、互いの寸法の関係や比率等が異なる部分が含まれている場合がある。

[0019] 図1は、本発明の一実施形態に係るデッキプレートアセンブリ1の斜視図である。デッキプレートアセンブリ1は、デッキプレート10と、化粧材20と、を備えている。デッキプレート10は、亜鉛メッキ等の表面処理が施された薄板状の鋼板をロールフォーミング等することによって形成した波形状の鋼板である。なお、デッキプレート10にはメッキ等の表面処理が施されていなくてもよい。デッキプレート10には、それぞれ長手方向Lに延びる複数の山部11と谷部13が交互に形成されており、隣接する山部11と谷部13とが傾斜部15によって繋がっている構造を有しており、これにより、山部11及び谷部13が短手方向Wに連続する波形状をなしている。山部11は、図2に示すように、支持梁B1と、隣接する別の支持梁B2との間にデッキプレートアセンブリ1が架け渡された状態（以下、「架渡し状態」ともいう）において、支持梁B1、B2の上面に対して上側に位置する平坦に形成された部分であり、長手方向Lに延在する板状の部分である。谷部13は、山部11に対して平行又は略平行であり、平坦に形成された部分である。架渡し状態において、支持梁B1、B2に接する、短手方向Wにおいて一番外側に配置されたデッキプレート10の谷部13は、該支持梁B1、B2のそれぞれに載置されている。傾斜部15は、山部11と谷部13とを繋ぐ部分であり、長手方向Lに延在する板状の部分である。傾斜部15は、短手方向Wにおいて山部11の側縁から斜めに谷部13の側縁に向かって斜めに延びている。

- [0020] デッキプレート10は、短手方向Wの一単位幅Xにおいて、例えば、2つの山部11と、1つの谷部13と、2組の一对の傾斜部15とを有しており、短手方向Wに沿った断面において波形に形成されている。なお、デッキプレートアセンブリ1の短手方向Wの寸法によっては、一単位幅Xのデッキプレート10に1つ、あるいは、3つ以上の山部11が設けられていてもよい。また、デッキプレート10の短手方向Wにおける両端部には、少なくとも谷部13の一部が設けられており、デッキプレートアセンブリ1が短手方向Wにおいて他のデッキプレートアセンブリ1と連結された場合、デッキプレートアセンブリ1同士の連結部は、谷部13として機能する。また、デッキプレートアセンブリ1は、長手方向Lの両端部においてエンドクローズ加工（以下、「エンクロ加工」ともいう）が施されていてもよい。
- [0021] デッキプレート10の下面側には、化粧材20が設けられている。例えば、化粧材20をデッキプレート10に短手方向300～600mmピッチ、長さ方向300～1500mmピッチで留め付けることによって、デッキプレート10と化粧材20とは安定的に固定される。化粧材20は、例えば、板状に形成された木板であり、谷部13の下面側にビス等を用いて固定されている。化粧材20が木板の場合は製材のみならず、木質材料、例えば薬剤処理や樹脂を添加するなどして強度若しくは耐火・難燃性能、又はその両方を向上させた集成材、LVL等の所謂エンジニアードウッドでもよいし、さらにカビや腐朽菌への耐性を向上させたものでもよい。化粧材20が木材から形成されている場合、CO₂ストック効果など環境への配慮や、吸湿吸音など住環境の向上も同時に実現できる。また、デッキプレート10への化粧材20の取り付けについては、ビスに限らず、接着剤やその他の手段により取り付けられていればよく、その取り付け方法は限定されない。また、化粧材20は、デッキプレート10の谷部13の下面に直接接触するように取り付けられる場合に限らず、管材や鋼材等の部材を介してデッキプレート10の谷部13の下面から間隔を空けた状態で化粧材20が取り付けられていてもよい。つまり、デッキプレートアセンブリ1は、デッキプレート10の下面

側に化粧材 20 が何らかの手段で直接的又は間接的に取り付けられていればよい。化粧材 20 は、デッキプレートアセンブリ 1 を支持梁 B に載置した状態において、支持梁 B 1、B 2 の間から直下階に露出するデッキプレートアセンブリ 1 の下面を覆い、見映えを向上させる意匠仕上げ材であってもよい。

[0022] デッキプレート 10 には、さらに、谷部 13 の端を折り曲げて、反り上がったフック状に形成された第 1 の嵌合部 21 と、第 1 の嵌合部 21 とは上下逆に反ったフック状に形成された第 2 の嵌合部 22 と、が形成されており、第 1 の嵌合部 21 は、デッキプレート 10 の、短手方向 W における端部の一方に、デッキプレート 10 の下面に設けられた化粧材 20 の端部に対して引込むように設けられており、第 2 の嵌合部 22 は、デッキプレート 10 の、短手方向 W における端部の他方に、デッキプレート 10 の下面に設けられた化粧材 20 の端部に対して突出するように設けられている。したがって、第 1 の嵌合部 21 側に設けられた化粧材 20 の端部は、該第 1 の嵌合部 21 よりも短手方向に延出している。第 1 の嵌合部 21 および第 2 の嵌合部 22 は、後述するように 2 枚のデッキプレートアセンブリ 1 同士が嵌合されたときに、それぞれの化粧材 20 の下面が略面一になるように形成されている。なお、第 1 の嵌合部 21 は、デッキプレート 10 の、短手方向 W における端部の一方に、デッキプレート 10 の下面に設けられた化粧材 20 の端部に対して突出するように設けられており、第 2 の嵌合部 22 は、デッキプレート 10 の、短手方向 W における端部の他方に、デッキプレート 10 の下面に設けられた化粧材 20 の端部に対して引込むように設けられていてもよいし、デッキプレート 10 の端部と化粧材 20 の端部が、高さ方向において同一面上にあってもよい。

[0023] 有利な一実施形態によれば、デッキプレート 10 の下面側には、デッキプレート 10 の単位幅 X と等しい単位幅の化粧材 20 が工場等で事前に組付けられている。このような構成のデッキプレートアセンブリ 1 を建設現場で設置した場合、化粧材 20 が、短手方向 W において、嵌合される第 1 の嵌合部

2 1 と第 2 の嵌合部との間に原理的に生じる遊びの調整ガイドを兼ねるため、設計値どおりの単位幅を確保するためのデッキプレートアセンブリ 1 の丁寧な施工を計画する手間が省ける。よって、天井仕上げ施工における上向き作業に際して、効率的かつ精密な作業が可能となる。更に、化粧材 2 0 を、デッキプレート 1 0 を載せかける短手方向 W の支持梁 B 1 と支持梁 B 2 との間に適切な寸法で納めることができる。

[0024] また、図示はされていないが、化粧材 2 0 同士の接続をさらに強固なものにするために、化粧材 2 0 の短手方向 W における端部の側面に、接触する 2 枚の化粧材 2 0 を嵌合するための仕口等の継手を設けることができる。

[0025] 本実施形態のように、デッキプレート 1 0 が、長手方向に延在する山部 1 1 及び谷部 1 3 から形成されるデッキである場合、デッキプレート 1 0 の山部 1 1 と化粧材 2 0 との間に形成される空間内に、空調設備、消火設備または配線設備等の任意な設備が設けられていてもよい。このように、従来では多くの場合デッキプレートアセンブリ 1 の下面に露出していた設備をデッキプレートアセンブリ 1 内に収納することによって、デッキプレートアセンブリ 1 全体の美観が向上し、かつ天井の効率的な空間利用が可能となる。

[0026] 別の実施形態によれば、デッキプレート 1 0 は、上記のような山部 1 1 と谷部 1 3 とから形成されるデッキプレートに限らず、平らな板にリブが形成されたフラットデッキプレート、または鉄筋トラスが装着された鉄筋付きデッキプレートであってもよい。

[0027] 図 3 (a) ~ (d) は、本実施形態に係る 2 枚のデッキプレートアセンブリ 1 A、1 B を敷き込む施工方法を示す図である。図 2 に示すように、デッキプレートアセンブリ 1 の 1 枚目 (図 2 中の左端のデッキプレート 1 0) 2 0' では、支持梁 B 1 に、デッキプレートの例えば幅 5 0 mm 分を載せかけるために、化粧材 2 0 の幅を 5 0 mm 短縮させておくといよい。第 1 のデッキプレートアセンブリ 1 A の一端を支持梁 B 1 で支えた状態で、図 3 (a) に示すように、第 2 のデッキプレートアセンブリ 1 B における化粧材 2 0 B の第 2 の嵌合部 2 2 B 側の端部 2 3 B を、第 1 のデッキプレートアセンブリ 1

Aにおける化粧材20Aの、第1の嵌合部21A側の端部23Aの上に載せる。続いて、図3(b)に示すように、第2のデッキプレートアセンブリ1Bの化粧材20Bの端部23Bを、該端部23Bの下側の角隅25Bを軸に、該端部23Bの側面が、第1のデッキプレート10Aの第1の嵌合部21Aと接触するまで傾ける。なお、この傾斜の角度は、嵌合部21A、22Bの形状および位置、化粧材20A、20Bの厚さ等に応じて適宜設定すればよい。第2のデッキプレートアセンブリ1Bを十分に傾斜させた状態で、図3(c)に示すように、化粧材20Bの端部23Bの下側の角隅25Bを、第1のデッキプレートアセンブリ1Aの化粧材20Aの端部23Aの縁24Aまでずらしていくと、やがて図3(d)に示すように、第2のデッキプレートアセンブリ1Bの端部23Bが第1のデッキプレートアセンブリ1Aの端部23Aから外れる。これにより、第1のデッキプレート10Aの第1の嵌合部21Aが、第2のデッキプレート10Bの第2の嵌合部22Bと接触する。その後、嵌合部同士が接触した状態で、第2のデッキプレートアセンブリ1Bを、第1のデッキプレートアセンブリ1Aに対して下方に枢動させることで、第1の嵌合部21Aと第2の嵌合部22Bとが嵌合する。こうすることで、第1のデッキプレートアセンブリ1Aと第2のデッキプレートアセンブリ1Bとを、化粧材20A、20Bの下面が面一になるように敷き込むことができる。最後に、デッキプレートアセンブリの単位幅と天井の幅とが合わない箇所には、フラッシング20' 'を別途設置する(図2を参照)。

[0028] 以上説明したように、本実施形態に係る方法を適用することによって、嵌合部を設置の基準として用いることができるため、デッキプレートの敷込作業が、デッキ単体の場合よりも精度よく効率化され、デッキプレートアセンブリを容易に敷き詰めることができ、かつ、上向き作業を伴う天井仕上げ作業を省略することもできる。また、化粧材とデッキプレートの単位幅を合わせていることで、隣接するデッキプレートの第1の嵌合部と第2の嵌合部との間に遊びがあっても、デッキプレートアセンブリの設置後に、隣接する化

粧材同士の間遊びをなくすことができ、これにより施工の誤差調整も不要となり、かつ、仕上がり美観も向上する。また、第2のデッキプレートアセンブリ1Bを第1のデッキプレートアセンブリ1Aに組み合わせる際に、第1のデッキプレートアセンブリ1Aの化粧材20Aに第2のデッキプレートアセンブリ1Bを載せることでその重量の一部を担わせることができるので、作業負荷を減少することが可能であり、かつ、第2のデッキプレートアセンブリ1Bの意図しない脱落を予防することができる。よって、作業を安全に実行することができる。

[0029] 建設現場において、デッキプレートアセンブリ1を敷き詰めた後に、デッキプレートアセンブリ1の上面にコンクリートを打設し、該コンクリートを一体的に固化させることにより、デッキ合成スラブを形成することができる。

[0030] 第1の実施形態では、デッキプレートアセンブリ1A、1Bを敷き詰めた後にデッキプレートアセンブリ1A、1Bの上面にコンクリートを打設した場合、図4に示すように、コンクリートノロCが、第1の嵌合部21Aと第2の嵌合部22Bとの間の隙間をすり抜け、隣接する2枚の化粧材20A、20B間の目地から漏れ出ることがある。このことにより、化粧材20A、20B、ひいてはデッキプレートアセンブリ1A、1Bの下面全体の美観が著しく損なわれてしまう場合がある。

[0031] そこで、改良された実施形態では、図5に示すように、化粧材20Aの端部23Aが、第1の嵌合部21Aよりも間隔Dだけ短手方向に延出しているように、化粧材20Aをデッキプレートに固定している。あるいは、端部23Aは第1の嵌合部21Aよりも10A側に例えば間隔Dだけ引込んでいてもよい。この実施形態によれば、2枚のデッキプレートアセンブリ1A、1Bを嵌合させたときに、化粧材20A、20Bの端部同士が接触する位置を、第1の嵌合部21Aと第2の嵌合部22Bとが嵌合する位置に対して、短手方向Wにおいて第2の嵌合部22B側に間隔Dだけ離間させることができる。この場合、仮にコンクリートノロCが第1の嵌合部21Aと第2の嵌合

部22Bとの間の隙間をすり抜けたとしても、化粧材20A、20B同士が接触する位置までには間隔Dが設けられているため、コンクリートノロCが化粧材20間の目地から漏れ出ることを抑制することができる。このことにより、デッキプレートアセンブリ1A、1Bの下面の美観が改善される。間隔Dは、コンクリートノロCの流動性等を考慮して、適宜決定すればよい。

[0032] なお、この実施形態の場合でも、図3に示したのと同様の順序により、第1のデッキプレートアセンブリ1Aに隣接させて第2のデッキプレートアセンブリ1Bを配置することが可能である。

[0033] この実施形態の場合、第2の嵌合部22Bが化粧材から大きく突出することになるため、図2に示したように、デッキプレートアセンブリ敷込の1枚目の化粧材20'の幅を短縮させておく必要がなくなる。したがって、全てのデッキプレートアセンブリ1に設ける化粧材20の幅をデッキプレートの単位幅Xと同寸法で統一することができるため、製造上および現場管理上の利点がある。

[0034] 別の有利な実施形態によれば、化粧材20の剛性により、薄鋼板のため変形が生じやすいデッキプレート10に対し、カンバーや横曲がり断面の平坦度を計画的に設定することができる。すなわち、化粧材20の剛性および形状を適宜に選択することによって、デッキプレートアセンブリ1全体の形状を精密に設計・施工することができ、言い換えれば、デッキプレートアセンブリ1の形状をどのように設計するかなどにより、化粧材20の性質を適宜に選択することが可能である。また、化粧材20の剛性や強度をデッキプレート10に付加することで、デッキプレート10単体では性能が不足して、板厚を厚くする、高さを高くする、支保工を設置する、コンクリート量を増やすなどコストのかかる処理が必要だったものを、省略することも可能であるし、遮音振動性能の向上や吸湿吸音性能の向上、空気の正常化など居住環境の向上を図ることも可能である。

[0035] 例えば、デッキプレートアセンブリ1の上面にコンクリートを打設する際、コンクリートの重量により、デッキプレートアセンブリ1全体が下側に向

かって湾曲することがある。このことを見越して、化粧材 20 に、デッキプレート の長さ方向の反りであるキャンバーを敢えて定量的に付与することによって、コンクリートの重量を起因とする湾曲を緩和することができる。キャンバーを定量的に付与することは、化粧材 20 の剛性、寸法および仕口等を工夫することで可能となる。

符号の説明

[0036]	1	デッキプレートアセンブリ
	1 A	第 1 のデッキプレートアセンブリ
	1 B	第 2 のデッキプレートアセンブリ
	10、10 A、10 B	デッキプレート
	11	山部
	13	谷部
	15	傾斜部
	20、20 A、20 B	化粧材
	21、21 A	第 1 の嵌合部
	22、22 B	第 2 の嵌合部
	23 A、23 B	化粧材の端部
	24 A	化粧材の端部の縁
	25 B	化粧材の端部の下側の角隅
	C	コンクリートノロ
	B1、B2	支持梁
	D	間隔
	L	長手方向
	W	短手方向
	X	単位幅

請求の範囲

[請求項1] デッキプレートと、前記デッキプレートの下面に設けられた、前記デッキプレートの単位幅と等しい単位幅を有する化粧材と、を備えるデッキプレートアセンブリであって、

 前記デッキプレートは、前記デッキプレートを折り曲げて反り上がったフック状に形成された第1の嵌合部と、前記第1の嵌合部とは上下逆に反ったフック状に形成された第2の嵌合部と、を備え、

 前記第1の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の一方に、前記デッキプレートの下面に設けられた前記化粧材の端部に対して引込むように設けられており、前記第2の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の他方に、前記デッキプレートの下面に設けられた前記化粧材の端部に対して突出するように設けられており、

 前記第1の嵌合部および前記第2の嵌合部は、隣接する2枚の前記デッキプレートアセンブリが嵌合されたときに、それぞれに設けられた前記化粧材の下面が略面一になるように形成されていることを特徴とする、

デッキプレートアセンブリ。

[請求項2] デッキプレートと、前記デッキプレートの下面に設けられた、前記デッキプレートの単位幅と等しい単位幅を有する化粧材と、を備えるデッキプレートアセンブリであって、

 前記デッキプレートは、前記デッキプレートを折り曲げて反り上がったフック状に形成された第1の嵌合部と、前記第1の嵌合部とは上下逆に反ったフック状に形成された第2の嵌合部と、を備え、

 前記第1の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の一方に、前記デッキプレートの下面に設けられた前記化粧材の端部に対して突出するように設けられており、前記第2の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の他方に、前記デッキプ

レートの下面に設けられた前記化粧材の端部に対して引込むように設けられており、

前記第1の嵌合部および前記第2の嵌合部は、隣接する2枚の前記デッキプレートアセンブリが嵌合されたときに、それぞれに設けられた前記化粧材の下面が略面一になるように形成されていることを特徴とする、

デッキプレートアセンブリ。

[請求項3]

デッキプレートと、前記デッキプレートの下面に設けられた、前記デッキプレートの単位幅と等しい単位幅を有する化粧材と、を備えるデッキプレートアセンブリであって、

前記デッキプレートは、前記デッキプレートを折り曲げて反り上がったフック状に形成された第1の嵌合部と、前記第1の嵌合部とは上下逆に反ったフック状に形成された第2の嵌合部と、を備え、

前記第1の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の一方に、前記デッキプレートの下面に設けられた前記化粧材の端部と高さ方向において同一面上に設けられており、前記第2の嵌合部は、前記デッキプレートの、短手方向における端部の他方に、前記デッキプレートの下面に設けられた前記化粧材の端部と高さ方向において同一面上に設けられており、

前記第1の嵌合部および前記第2の嵌合部は、隣接する2枚の前記デッキプレートアセンブリが嵌合されたときに、それぞれに設けられた前記化粧材の下面が略面一になるように形成されていることを特徴とする、

デッキプレートアセンブリ。

[請求項4]

前記第1の嵌合部側の化粧材の端部が、該第1の嵌合部よりも短手方向に延出していることを特徴とする請求項1に記載のデッキプレートアセンブリ。

[請求項5]

前記第2の嵌合部側の化粧材の端部が、該第2の嵌合部よりも短手

方向に延出していることを特徴とする請求項 2 に記載のデッキプレートアセンブリ。

[請求項 6] 前記化粧材の短手方向における端部の側面に、接触する 2 枚の前記化粧材を嵌合するための継手が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のデッキプレートアセンブリ。

[請求項 7] 前記デッキプレートが、長手方向に延在する山部及び谷部から形成されているデッキプレート、平板部にリブが形成されたフラットデッキプレート、または鉄筋トラスが装着された鉄筋付きデッキプレートであることを特徴とする請求項 1 に記載のデッキプレートアセンブリ。

[請求項 8] 前記デッキプレートが、長手方向に延在する山部及び谷部から形成されているデッキプレートである場合、前記デッキプレートの山部と前記化粧材との間に空調設備、消火設備または配線設備などの建築設備や電機設備が設けられていることを特徴とする請求項 7 に記載のデッキプレートアセンブリ。

[請求項 9] 隣接する 2 枚の、請求項 1、4、6 から 8 のいずれか 1 項に記載のデッキプレートアセンブリを設置する方法であって、

一方のデッキプレートアセンブリにおける化粧材の、第 2 の嵌合部側の端部を、他方のデッキプレートアセンブリにおける化粧材の、第 1 の嵌合部側の端部の上に載せるステップと、

前記化粧材の前記第 2 の嵌合部側の端部を、該端部の下側の角隅を軸に、該端部の側面が前記第 1 の嵌合部と接触するまで傾けるステップと、

前記化粧材の前記第 2 の嵌合部側の端部の下側の角隅を、前記化粧材の前記第 1 の嵌合部側の端部の縁までずらすステップと、

前記第 1 の嵌合部と前記第 2 の嵌合部とが接触した状態で、前記一方のデッキプレートアセンブリを、前記他方のデッキプレートアセンブリに対して下方に枢動させるステップと、

を含むことを特徴とする方法。